

事業の概況

■ 経営環境等

我々系統組織を取り巻く環境は、少子高齢化による人口減少の進展などの構造的な問題により厳しさを増すなか、地銀再編の加速化、資金需要の減少と、それに伴う貸出競争の激化など収益確保に向けた生き残り競争が熾烈化してきております。

金融環境においては、日銀のマイナス金利政策の長期化や令和元年10月からの消費税の増税による個人消費の影響など、景気の先行きは不透明な状況が続いています。

また、新型コロナウイルスが世界各地で猛威を振るい、国内外経済にも深刻な影響が出ています。

こうした情勢のもと、令和元年度は、中期経営計画（令和元年度～令和3年度）の初年度として、基本戦略である「安定的収益還元機能の強化」、「J Aバンクえひめ本部機能の強化」に取り組みました。

「安定的収益還元機能の強化」については、有価証券の計画的な投資に取り組むとともに、地場企業および農業関連法人などへの新規開拓を積極的に展開しました。

「J Aバンクえひめ本部機能の強化」では、農業の成長支援として、訪問サポートなどによりJ A顧客対応力の強化を図るとともに、農業所得の向上に向けた農業応援助成事業などを展開しました。

また、信用事業推進の変革として、J Aの安定的な収益構造の構築に向けて、メイン利用者との取引深化や未定例先との取引強化などにかかる支援を実施し、顧客基盤の拡充に取り組むとともに、J A現場営業力・マネジメント力強化にかかる支援や金融インフラの合理化・効率化に繋がる提案を行いました。

以上のような取り組みの結果、経常利益、当期剰余金ともに計画を上回る実績を収めることができました。

■ 業績

令和2年3月末の県内JA貯金残高は2兆192億円となり、前年対比97億円増加しました。
JA貸出金残高は3,309億円となり、前年対比43億円増加しました。

一方、当会の資金調達では、令和2年3月末貯金残高は1兆6,513億円となり、前年対比137億円増加し、令和元年度期中平均残高は1兆6,517億円で、前年対比236億円増加しました。

資金運用では、預け金残高は1兆583億円となり、前年対比433億円増加し、期中平均残高は1兆600億円で、前年対比65億円増加しました。

貸出金残高は927億円となり、前年対比9億円増加し、期中平均残高は891億円で、前年対比96億円減少しました。

有価証券残高は5,438億円となり、前年対比467億円減少し、期中平均残高は5,482億円で、前年対比117億円増加しました。

事業収支では、経常収益は178億9千3百万円、経常費用は137億2百万円となりました。

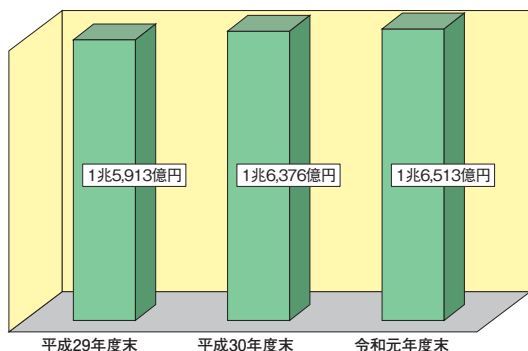
この結果、経常利益は41億9千1百万円で、前年対比10億8千3百万円の減益となりました。

また、当期剰余金は36億9千2百万円で、前年対比6億8千9百万円の減益となりました。

資金調達および資金供給の状況

信連の資金調達の状況

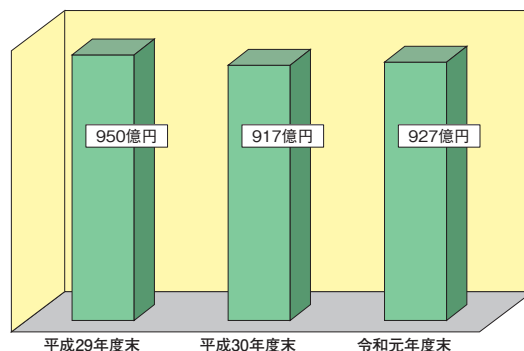
信連貯金等残高の推移



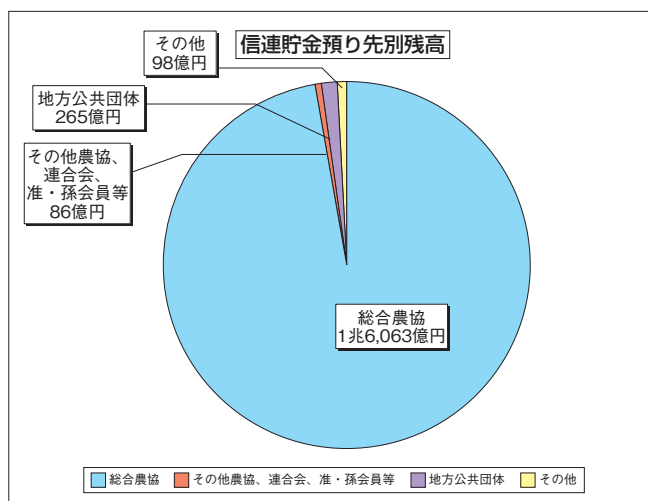
当会の貯金等の残高は、令和2年3月末現在 1兆6,513億円となり、前年比137億円増加しました。

信連の貸出金の状況

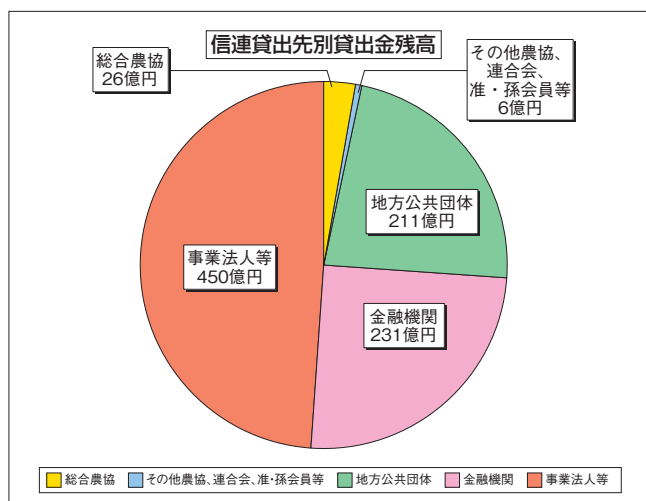
信連貸出金残高の推移



当会の貸出金の残高は、令和2年3月末現在 927億円となり、前年比9億円増加しました。



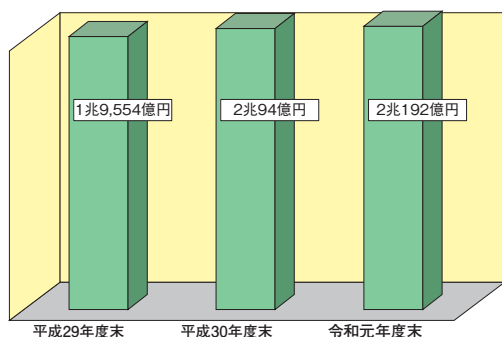
当会の資金調達は主として総合農協（JA）からの貯金によるものです。



県内JAおよび当会にお預りしている貯金等を原資として、地域の皆さまのさまざまな資金ニーズにお応えるためにご融資を行っています。

JAの資金調達の状況

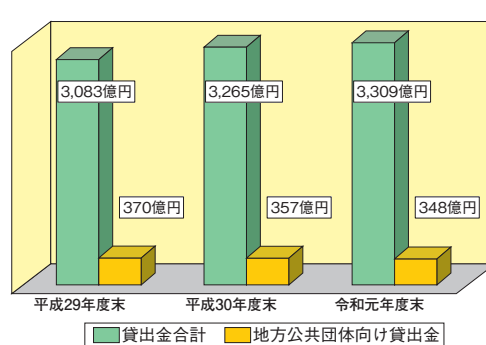
JAの貯金等残高の推移



JAが組合員をはじめ地域の皆さまからお預りしている貯金等の残高は、令和2年3月末現在 2兆192億円となり、前年比97億円増加しました。

JAの貸出金の状況

JAの貸出金残高の推移



JAは、お預りしている貯金等を原資として、組合員・地域の皆さまのさまざまな資金ニーズにお応えるためにご融資を行っています。令和2年3月末現在の貸出金残高は3,309億円、うち地方公共団体向け貸出金は348億円です。